

平成28年度 農林水産関係新規試験研究課題一覧表

大分県農林水産研究指導センター

【農業部門】

研究部・グループ名	課題名	研究内容
農業研究部	製鋼スラグを利用した野菜類栽培における多面的効果の検証	製鋼スラグ施用による土壌病害発生抑制効果や野菜類の品質向上効果の確認と共に、土壌及び地下水等環境負荷に対する中・長期的な影響や施用上限量等について検証する。
	亜リン酸肥料を用いた夏秋ピーマン安定生産技術の確立	夏秋ピーマン栽培において新資材「亜リン酸」の肥料効果の検証を行うと共に、適切な施用量や施用時期、生育、収量、品質等への影響について検討を行い、施肥技術を確立する。
	イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立	イチゴ大規模経営体における安定出荷のための作型開発と収穫ピークを分散させるための栽培管理技術及び省力化・低コスト化技術を開発する。
	市場動向を見据えた露地野菜生産安定技術の確立	近年需要が拡大している業務加工用野菜の安定供給のための品種の選定と需要期に適した作型を開発する。また輸出が拡大している焼き芋用カンショの効率的な栽培技術を開発する。
	新技術を核とした施設葉菜類の生産安定技術の確立	葉菜類の栽培施設における栽培環境データの収集と解析を行い周年生産のための栽培技術を開発する。また、新たに開発した「ベルトプランター」を使用した省力低コスト栽培技術を開発する。
	ドリンク茶栽培における収量・品質向上のための総合的管理技術の確立	ドリンク茶栽培における多収・大規模栽培で安定した品質を確保するために必要な摘採時期の判断技術や整枝などの管理技術及び省力施肥技術を確立する。
農業研究部 水田農業 グループ	県産米利用拡大に向けた酒米生産技術の確立	大分県産米の利用拡大と酒造好適品種を導入することを目的に、大分県の気象条件に適応し、収量性や耐倒伏性などの栽培特性、醸造適性に優れ、高単価の期待できる酒米品種を選定し栽培指標を策定する。
農業研究部 果樹グループ	無加温ハウスに適したカンキツの品種選定及び栽培技術の確立	燃油高騰により、無加温ハウス栽培が増加している。無加温ハウスに適する品質良好な新たな品種選定と栽培技術の確立を図る。また、大規模経営を可能にする省力ハウスを開発し、力強いハウスみかん経営体系の構築を図る。
	グリーンカボス年明け出荷に対応した技術開発 ～ 産地から店頭まで ～	販売単価の高い、年明け出荷量を増加させるため、グリーンのカボス長期貯蔵技術の確立及び長期貯蔵に適した品種の探索を行う。また、流通過程における鮮度保持技術の確立を図る。
	「豊里」につづけ！うまくて高収量な大分県オリジナル極早生ナシの開発（第1期）	生産現場からのニーズの高いナシの極早生品種をDNAマーカーを利用し、早期に育成を行う。大分県オリジナルの極早生品種育成により、大分県の梨産地活性化を図る。
農業研究部 花きグループ	キク的环境制御技術による品質向上と安定生産	施設を利用して生産される輪ギク等において、近年注目されている環境制御技術を活用し奇形花防止技術の確立、上位等階級の発生率の向上、燃油コストの低減を目指す。併せて、環境制御技術マニュアルを作成する。
	スイートピーの安定生産技術の確立とオリジナル品種の育成	スイートピーの低コスト安定生産技術を確立し、栽培マニュアルを作成する。また、スイートピー主要品種系統選抜の実施、オリジナル品種の育成を図り付加価値の向上を目指す。

平成28年度 農林水産関係新規試験研究課題一覧表

大分県農林水産研究指導センター

【畜産部門】

研究部・グループ名	課 題 名	研 究 内 容
畜産研究部	液状精液を活用した牛の受胎率向上技術の開発 ～ 牛の液状精液用精液希釈液の開発 ～	酪農における雌牛の受胎率を向上のため、豚精液希釈液を応用し、精子の運動能、受精能を長期間保持する牛の人工授精用液状精液希釈液を開発することにより、不受胎期（夏期）の人工授精技術の選択肢の幅を広げるとともに受胎率の向上を図る。
	乳用種未経産牛から採取した雌判別体内受精卵による効率的後継牛確保対策	酪農の後継牛確保対策のため、未経産牛より受卵子回収と雌選別精液による人工授精等の技術を組み合わせて雌性受精卵を経産牛に移植し、効率的に後継雌牛を確保する。
	コントラクターを軸とした粳米サイレージの広域流通体制の構築と利用技術の開発	コントラクターと大規模な粳米サイレージ調製を行い、長期保存可能な技術及び給与技術を開発することと、飼料イネの収穫作業等と同時期に粳米サイレージ調製を行うコントラクターが大規模に粳米サイレージを調製できる体制を構築する。

【林業部門】

研究部・グループ名	課 題 名	研 究 内 容
林業研究部	ニホンジカの誘引技術等に関する研究	ニホンジカの農林業被害を抑制するため、県では捕獲による個体数削減に力を入れている。本研究では、ワナ等により多頭捕獲するための誘引技術を開発するとともに、個体数削減に効果的なメスジカ重点捕獲の検証を行う。
林業研究部 きのこ グループ	乾シイタケの味覚と機能性に関する研究	乾シイタケの旨味、香り、機能性成分を明らかにするために、品種、栽培地等栽培条件の異なるサンプルで、官能検査と成分分析を行い、分析値を総合的に検討し、乾シイタケの機能的な特徴を明らかにする。
	地域資源を活用したきのこ栽培に関する研究	クヌギチップや食品加工副産物等の地域資源を活用し、菌床アラゲキクラゲの現地実証試験及び薬用成分を含有するセミタケの栽培技術確立を行う。

【水産部門】

研究部・グループ名	課 題 名	研 究 内 容
水産研究部 浅海・内水面 グループ	クルマエビ養殖場を利用した二枚貝複合養殖システムの開発	地元のアサリ母貝と現地の大型水槽を用いて養殖用稚貝を安定生産できる体制を構築するとともに、クルマエビ養殖池に発生する植物プランクトンを活用したクルマエビとアサリの複合養殖システムを構築して、販売方法についても検討する。
	三隈川水系におけるアユの生息環境の把握と陸封アユ有効利用手法の開発	九州北部豪雨の影響を調べるために、三隈川水系におけるアユの生息環境を把握する。また、経費を抑えた種苗放流を行うために、ダム湖に生息する未利用アユの有効利用手法を開発する。